

各感染症対策主管課長
各医師会 長 殿
定点観測医療機関長

福岡県医師会
会長 平田 泰彦
(公印省略)

福岡県結核・感染症発生動向調査解析委員会 週報

週報 令和8年—第28週 (R8. 7. 6~R8. 7. 12)

定点	病 名	定点報告数 (○: 警報レベル, □: 注意報レベル)						1定点当たり	
		23週	24週	25週	26週	27週	28週	福岡県	全国
		6/1~	6/8~	6/15~	6/22~	6/29~	7/6~	28週 7/6~	
ARI	急性呼吸器感染症	5706	6155	6393	6521	6410	6152	50.43	52.25
	インフルエンザ	7	11	9	9	2	5	0.04	0.13
	新型コロナウイルス感染症	109	149	269	357	433	417	3.42	1.87
小児科	RSウイルス感染症	45	65	61	56	69	93	1.33	0.43
	咽頭扁桃炎	85	73	78	50	49	46	0.66	0.40
	A群溶血性連鎖球菌感染症	241	230	203	225	192	187	2.67	1.89
	感染性胃腸炎	464	462	464	489	409	398	5.69	4.29
	水痘	49	56	32	40	46	39	0.56	0.38
	手足口病	○497	○621	○573	○666	○607	○494	○7.06	9.12
	伝染性紅斑	10	3	0	3	0	1	0.01	0.08
	突発性発疹	37	36	35	38	23	32	0.46	0.34
	ヘルパンギーナ	113	179	201	202	175	194	2.77	2.29
	流行性耳下腺炎	3	1	5	4	4	4	0.06	0.05
	川崎病 (MCLS)	4	11	3	5	2	5	0.07	
	マイコプラズマ肺炎	5	9	9	4	12	2	0.03	
	細菌性髄膜炎	0	1	0	0	0	0	0.00	
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0.00	
眼科	急性出血性結膜炎	1	0	1	0	2	2	0.08	0.00
	流行性角結膜炎	36	37	19	26	18	31	1.19	0.55

月報 令和8年—6月 (R8.6.1~R8.6.30) (STD 定点数37)

病 名	定点報告数	前月比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全 国
性器クラミジア感染症	113	113%	福岡48、筑後26	3.05	2.42
性器ヘルペス	51	78%	福岡25、北九州14	1.38	1.05
尖圭コンジローマ	11	69%	福岡5、北九州3	0.30	0.56
淋菌感染症	34	89%	北九州10、福岡10	0.92	0.63

■ 総 評

▽ 2026年第28週: R8.7/6-7/12は手足口病の多発が続くが2週連続減少、第22週から警報レベル、ヘルパンギーナは多発傾向。新型コロナウイルスも定点当たり3.42(全国は1.87)と多発が続く。インフルエンザは定点当たり福岡県は0.04(全国0.13)、キットはA型0人、B型0人。感染性胃腸炎ではノロウイルスの報告が続く。全国情報で麻疹の報告は今週ゼロでした。ヒトメタニューモウイルス感染症の報告も多い。
検査定点医療機関には手足口病・ヘルパンギーナの検体提出をお願いします。

■ ARI (R7.15週より内科定点数78→52 ※ARI 定点は内科定点と小児科定点によって構成)

- ※ 急性呼吸器感染症: 5週間前から5706、6155、6393、6521、6410、6152と推移。
- ※ インフルエンザ: 定点当たり0.04(前週0.02; 20歳以上60.0%)、キットではA型0人、B型0人。全国定点当たり0.13(前週0.12)。
- ※ 新型コロナウイルス感染症: 多発が続く(20歳以上12.2%)、定点当たり3.42(前週3.55)、全国定点当たり1.87(前週1.47)。

■ 小児科 (R7.15週より小児科定点数120→70)

- ※ RSウイルス感染症：4歳以上5人。
- ※ A群溶レン菌咽頭炎：発疹合併：6歳男。
- ※ 感染性胃腸炎：3歳以下51.0%。ノロウイルスの報告が続く。
 - ・カンピロバクター：7歳女、11歳男、12歳男2人、13歳男(感受性S：ABPC、IPM/CS、GM、EM、MINO、CP、CPFX、FOM)、13歳男(感受性S：IPM/CS、GM、EM、MINO、CP、CPFX、FOM、R：ABPC)、14歳男、女。
 - ・ロタウイルス：報告なし。
 - ・アデノウイルス：10か月男、1歳男2人、女。
 - ・ノロウイルス：6か月男、2歳男、5歳男。
- ※ 水痘：15歳以上0人。ワクチン済例：1.10歳女(接種時期等不明の1回；軽症)、2歳女(接種時期等不明の1回；軽症)、4歳女(R5.3/30にVZ339；中等症)、5歳男(R4.8/27にVZ332、R5.3/30にVZ340；中等症)、5歳男(接種時期等不明の2回；軽症)、5歳女(R4.2/17にVZ322、R4.8/18にVZ329；軽症)、5歳女(R4.9/9にVZ316、R5.10/3にVZ325；軽症)、6歳男(R3.4/12とR3.10/20にロット不明；軽症)、6歳女(R3.6/15にVZ310、R3.11/30にVZ311；軽症)、6歳女(R3.6/29にVZ312、R3.12/7にVZ311；軽症)、6歳女(R3.6/4にVZ309、R3.12/20にVZ319；軽症)、7歳男(R1.8/10とR2.2/10にロット不明；軽症)、7歳女(R1.12/13にVZ268、R2.5/15にVZ278；軽症)、8歳男(R3.11/26にVZ319；中等症)、8歳女(R1.11/15にVZ266、R2.8/1にVZ285；軽症)、9歳男(H29.8/25にVZ207、H30.2/26にVZ222；中等症)、9歳女(H30.5/14にVZ221、H30.10/29にVZ232；軽症)、9歳女(H30.7/2にVZ223；軽症)、9歳女(H30.1/30にVZ220、H30.8/28にVZ234；軽症)、11歳男(H27.9/4にVZ154、H28.3/7にVZ169；軽症)、11歳女(H27.9/16にVZ128、H28.3/7にVZ168；軽症)、12歳女(H26.10/9にVZ104、H27.5/26にロット不明；軽症)、12歳女(接種時期等不明；中等症)。
- ※ 手足口病：多発が続くが2週連続減少、第22週から警報レベル。
- ※ ヘルペシギーナ：多発傾向。
- ※ 流行性耳下腺炎：15歳以上0人。ワクチン済例：報告なし。
- ※ マイコプラズマ肺炎：15歳以上0人。
- ※ その他の疾患：ヒトメタニューモ：前週68人、今週75人と多い。

■ 眼科 (眼科定点数26)

- ※ 流行性角結膜炎：キット陽性：4歳女、20歳女2人、40歳女、42歳女。

■ 基幹 (基幹定点数15)

- ※ 特記すべき報告なし。

■ ウイルス分離

- ※ 急性呼吸器感染症(ARI)：6/16の7か月女、1歳女、6/17の10か月女、6/26の1歳女、6/29の8か月男からライノ/エンテロウイルス、6/17の8か月女、6/24の1歳男、6/29の1歳女からヒトパラインフルエンザウイルス3型、ライノ/エンテロウイルス、6/30の68歳男から新型コロナウイルス。咽頭結膜熱：5/11の3歳男からアデノウイルス2型、5/27の10か月男からアデノウイルス1型、5/27の1歳女からRSウイルスA型、ヒトパラインフルエンザウイルス3型。無菌性髄膜炎：6/9の0か月男の髄液からバネコウイルスの3型。[福岡市保健環境研究所]

■ 全数報告

- ※ 腸管出血性大腸菌：全国今週83人、全国累計1560人、福岡県今週7人、福岡県累計87人。
- ※ エムボックス：全国第28週に2人、全国累計80人(R7年23人)。
- ※ 重症熱性血小板減少症候群：全国第28週に8人、全国累計104人、福岡県第27週に2人、福岡県累計4人。
- ※ デング熱：全国第28週に3人、全国累計44人、福岡県第11週に1人、福岡県累計1人。
- ※ 日本脳炎：全国第28週に0人、全国累計2人(千葉1、愛媛1；R7年4人)。
- ※ 劇症型溶レン菌感染症：全国累計723人、福岡県累計36人。
- ※ 梅毒：全国累計6116人、福岡県累計376人。
- ※ 百日咳：全国累計3689人、福岡県累計159人。
- ※ 風しん：全国第28週に1人(神奈川1)、全国累計3人(東京1、神奈川1、三重1；R7年11人)。
- ※ 麻疹：全国第28週に0人、全国累計547人(北海道～沖縄；福岡4、長崎2、熊本2、宮崎1、鹿児島34、沖縄2；R7年265人)。

※ 福岡県医師会ホームページの感染症情報欄にも掲載されていますので下記URL及びQRコードよりご参照下さい。

URL：https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/kansenshou/_11717.html

ホーム>医師の皆様>感染症・予防接種>感染症発生動向調査

結核・感染症発生動向調査委員会
委員長 青木 知信



定点把握対象疾患 1 定点医療機関当たり患者数 【保健所別】

定点把握対象疾患 報告数 【年齢階級別】

[illegible]

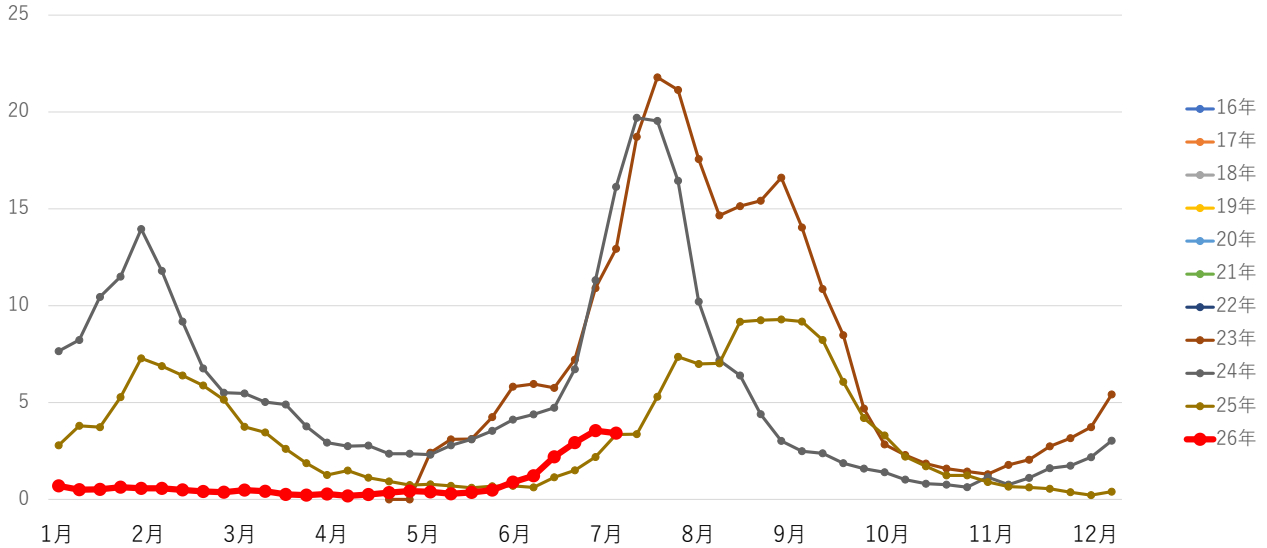
全数把握対象疾患発生状況

令和8年－第28週(R8.7.6～R8.7.12)

感染症 類 型	日付 疾病名	福岡累計					福岡					全国
		2021	2022	2023	2024	2025	25週	26週	27週	28週	26年 累計	28週
二類	結核	757	733	718	883	773	25	18	11	7	417	247
三類	細菌性赤痢			1	2	5	1				5	
	腸管出血性大腸菌感染症	182	254	215	172	284	5	11	9	7	87	83
	腸チフス			2	3	4						
	パラチフス											
四類	E型肝炎	6	1	9	8	6					1	12
	A型肝炎	2	5	3	11	10		1		2	3	13
	エムボックス			1	1							2
	ジカウイルス感染症			1								
	重症熱性血小板減少症候群	1	5	2	4	5			2		4	8
	チクングニア熱		1	1	1	5						
	つつが虫病	3	7	6	1	5						2
	デング熱		10	14	10	12					1	3
	日本紅斑熱	7	6	11	8	17	1	1			3	16
	ボツリヌス症											
	マラリア		1	2	1						1	
	ライム病		1	1		1						
	レジオネラ症	60	71	89	77	75		1		3	31	141
	レプトスピラ症	1	3		3	2						
五類	アメーバ赤痢	17	26	22	25	23	1			1	12	7
	ウイルス性肝炎	8	6	9	6	10					1	5
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	128	110	112	147	75	1		1	2	35	15
	急性弛緩性麻痺		3	5	1	1						
	急性脳炎	22	22	35	29	37	1	2			20	5
	クリプトスポリジウム症			2	1							
	クロイツフェルト・ヤコブ病	7	9	6	6	5				1	3	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	23	32	48	67	68	1	2			36	12
	後天性免疫不全症候群	54	63	59	56	42		1			30	12
	ジアルジア症	2	2	1	3						1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	14	13	19	28	30	1	1	1	1	21	13
	侵襲性髄膜炎菌感染症		1		3	3						1
	侵襲性肺炎球菌感染症	81	64	89	116	128	2			2	68	18
	水痘(入院例に限る)	16	5	12	27	33	3			1	20	11
	梅毒	348	566	942	880	770	11	12	15	18	376	163
	播種性クリプトコックス症	5	3	10	7	13	1			1	7	1
	破傷風	2	3	6	1					1	3	2
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	5	4		2					1	1
	百日咳	29	25	24	216	3232	2	1	7	6	159	80
	風しん		1	1								1
	麻しん	1			1	22					4	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	1									
計		1780	2058	2482	2805	5698	56	51	46	53	1,350	877

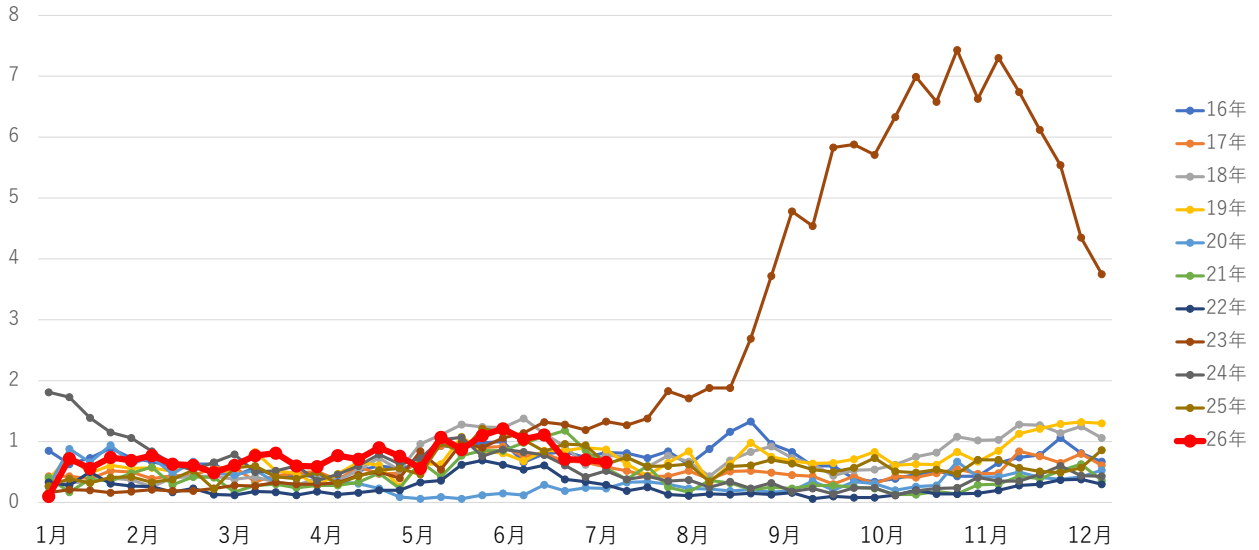
新型コロナウイルス感染症 疾病毎定点当り報告数（過去10年間との比較）

(定点值)



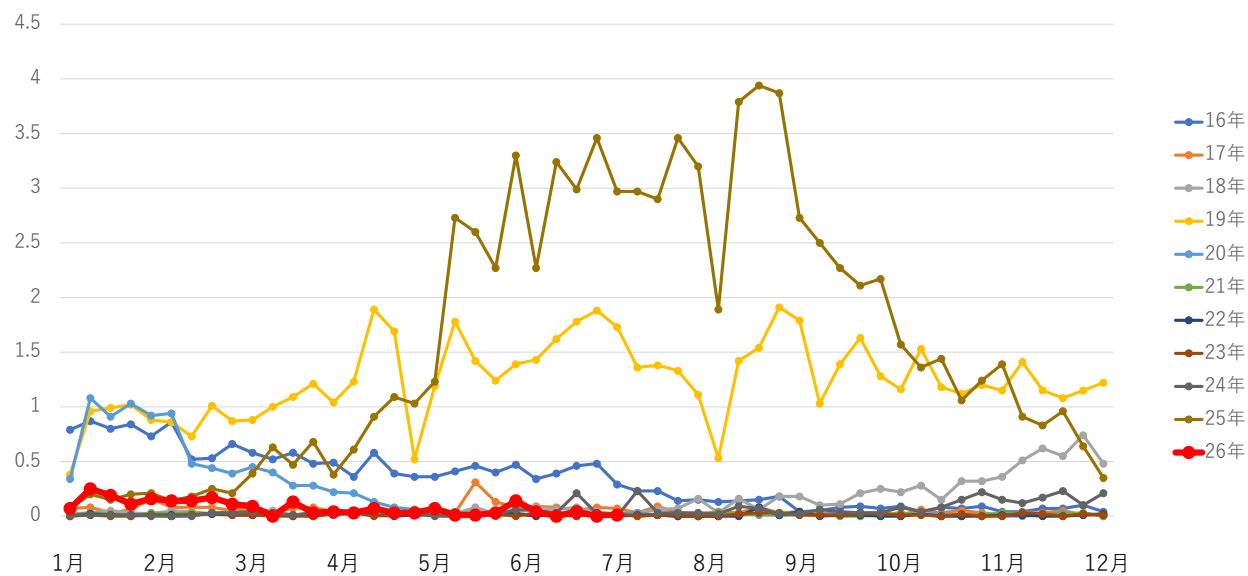
咽頭結膜熱 疾病毎定点当り報告数（過去10年間との比較）

(定点值)



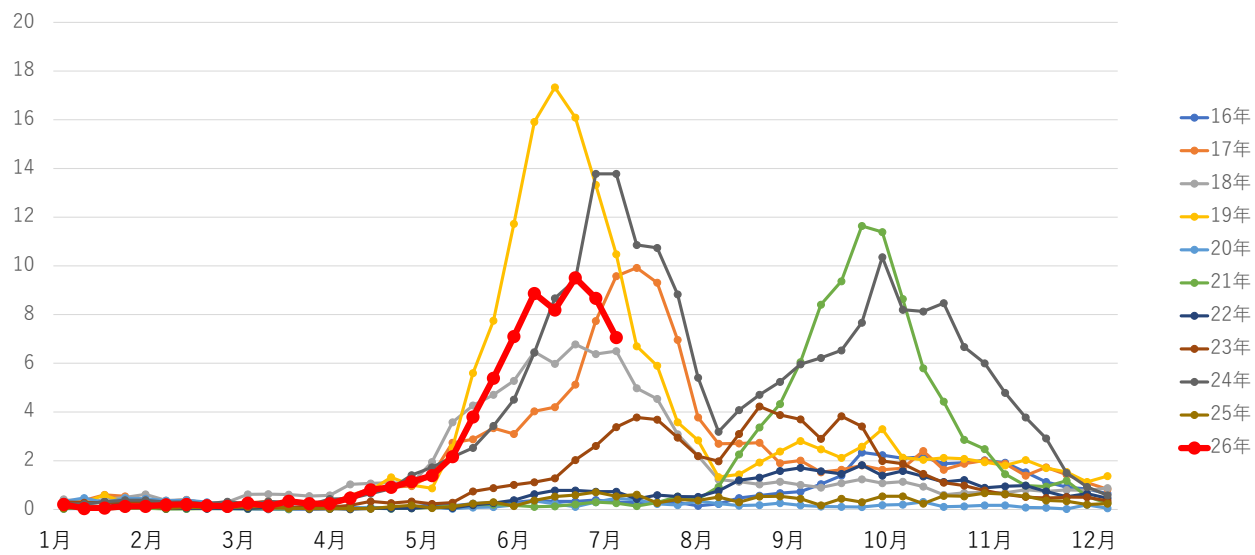
伝染性紅斑 疾病毎定点当り報告数（過去１０年間との比較）

(定点值)



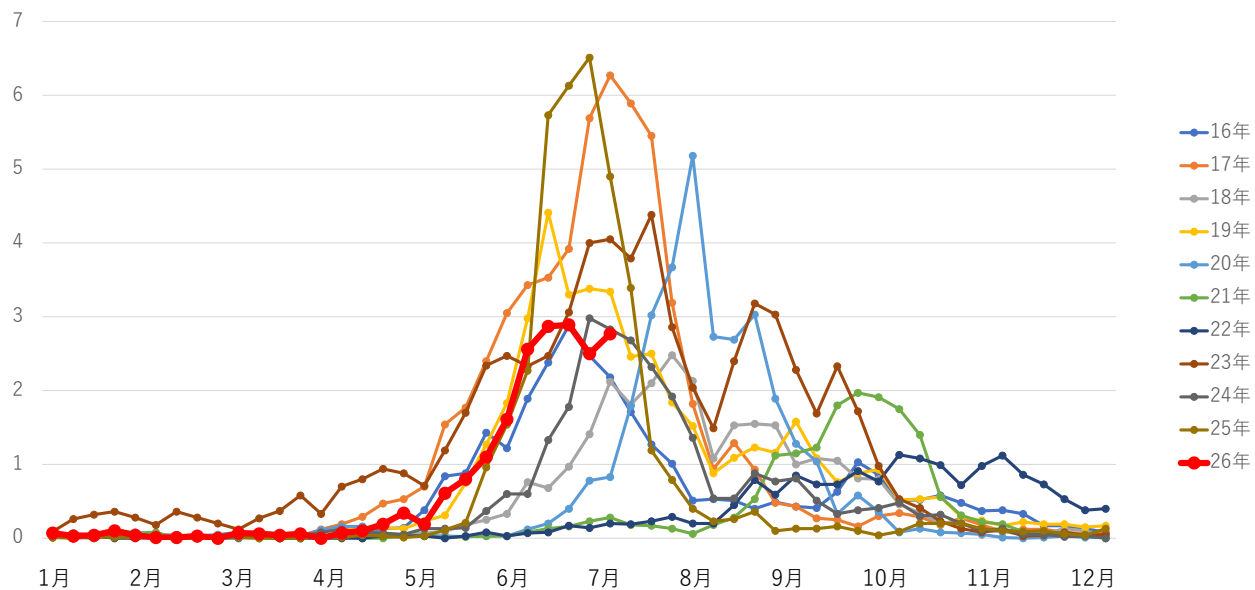
手足口病 疾病毎定点当り報告数（過去10年間との比較）

(定点值)



(定値)

ヘルパンギーナ 疾病毎定点当り報告数（過去10年間との比較）



手や足、口の中などに
ほっ発しんはありますか？



て あ し く ち び ょ う 手足口病

手足や口の中などに水疱^{ほう}を伴う複数の発しんが出る感染症です。発熱は発症した人の約3分の1で起こり、38度以下のことがほとんどです。多くの場合、数日間で自然に治りますが、まれに合併症を起こし、重症化することがあります。



感染してから数日後に2～3mmの水疱(発しん)がみられます。

流行時期

夏

を中心に毎年発生します。2歳以下が半数を占めますが、小学生でも流行的発生がみられることがあります。

感染経路

飛沫感染、接触感染、糞口感染(便と一緒に排泄されたウイルスが口に入っ
感染すること)が知られており、特に乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などで注意が必要です。

治療方法

手

足口病に特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法を行います。まれに重症化することがあるため、以下の症状がある場合は、医療機関への受診をご検討ください。

- ☐ 高熱が2日以上続く
- ☐ 嘔吐する
- ☐ 頭を痛がる
- ☐ 視線が合わない
- ☐ 呼びかけに答えない
- ☐ 呼吸が速くて息苦しそう
- ☐ 水分が取れずにおしっこがでない
- ☐ ぐったりとしている

- ✓流水や石けんによる手洗いをしましょう。
- ✓タオルの共用を避けましょう。
- ✓排泄物の適切な処理を行いましょう。

手足口病は治った後も比較的長い期間、便と一緒にウイルスが排泄されます。た、感染しても発病しないままウイルスを排泄する場合もあると考えられます。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急(<http://kodomo-qq.jp/>)」などのWebサイトを参照したり、「#8000(こども医療電話相談)」にご相談ください。

手足口病について ▶

厚生労働省



夏を安全に楽しもう！

感染症対策ガイド

海に山にキャンプに、家族や友人と集まってワイワイするのも楽しそう。でも、油断は大敵！ 夏に多く発生する感染症もあり注意が必要です。どんな感染リスクがどこに潜んでいるのか、感染予防の基本を押さえて大いに夏を楽しみましょう。

健康生活衛生局
感染症対策部
感染症対策課
感染症情報管理室長
横田 栄一



アウトドアレジャーは
肌の露出が少ない服装で

夏は病原体を媒介する蚊やダニの活動が活発化します。こうした害虫に刺されると、蚊媒感染症やダニ媒介感染症といった動物由来感染症にかかる危険性が高まります。蚊やダニが多く生息する野外に出かける時や熱帯・亜熱帯地域へ旅行する時は、事前に予防対策を行うことが大切です。

特に、急激な発熱で発症する「デング熱」「マラリア」などの蚊媒感染症は、東南アジアやアフリカ、中南米で流行しており、感染すると命に危険が及ぶこともあります。海外へ渡航する際は、行き先での注意点や予防接種情報などの事前チェックも忘れずにしてください。一方、国内においても、「つつが虫病」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」といったダニ媒介感染症の発生地域に広がりがみられます。また、野生動物や沢の水を介して感染するエキノコックスにも注意が必要です。野外でレジャーを楽しむ時は、肌の露出の少ない長袖・長ズボンで、明るい色の服（マダニを目視で確認しやすい）を着用するなどして、感染症から身を守りましょう。

OUTDOOR

© matsu - stock.adobe.com

1
デング熱



1

デング熱

(特徴)

熱帯や亜熱帯地域で流行している感染症。急激な発熱で発症し、発疹、頭痛、骨関節痛、嘔吐などの症状が現れます。デング熱の発生地域へ渡航する際は、虫除け剤を使用するなど蚊に刺されないようにしてください。

(感染経路)

ウイルスに感染した患者を吸血した蚊の体内でウイルスが増殖。その蚊が他者を吸血することで感染します。

2

日本脳炎



3

つつが虫病

(特徴)

潜伏期は5～14日。全身の倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症します。体温は段階的に上昇し、数日で40℃にも達することがあります。

(感染経路)

病原体の、つつが虫病リケッチアを保有するつつが虫に刺されて感染します。刺し口は皮膚の柔らかい隠れた部分に多く、日本では北海道を除く全国で発生がみられます。

2

日本脳炎

(特徴)

感染後1～2週間の潜伏期を経て、突然の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、意識障害や麻痺等の神経系の障害を引き起こす病気です。

(感染経路)

日本脳炎ウイルスの感染による急性脳炎で、感染したブタを吸血した蚊（コガタカイエカなど）に刺されることによりヒトに感染します。

4

SFTS

3

つつが虫病



4

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

(特徴)

2011年以降、日本、中国、韓国、台湾、ベトナムなどで発生が確認されているダニ媒介性の感染症。主な初期症状は発熱、全身の倦怠感、消化器症状で、重症化すると命に危険が及ぶこともあります。

(感染経路)

SFTSウイルスを保有するマダニに刺されると感染します。SFTSを発症しているネコやイヌなどの動物を介してヒトが感染することもあるので、動物に咬まれたり、体液に直接触れたりした時にも注意が必要です。

5

エキノコックス

(特徴)

エキノコックスと呼ばれる寄生虫による感染症です。日本では北海道のキタキツネが主な感染源で、感染すると数年から十数年たって肝機能障害などの自覚症状が現れます。野外では野生のキツネやイヌに接触しない、沢や川の生水は虫卵に汚染されている可能性があるため飲まないようにしてください。

(感染経路)

キツネなどから排泄された糞中の虫卵が口から入ることで感染します。

5

エキノコックス



感染対策基本のキ

1 流水と石けんでの手洗い

2 よく触れる物のアルコール消毒

3 可能な範囲でのマスク着用

からだに不調を感じたら

医療機関に相談しましょう

感染症の初期は発熱や咳などで発症しますが、猛暑で体力や免疫力が低下すると、感染リスクも高まります。「変だな？」と思ったら、医療機関に相談してください。

感染症についての情報はこちら



4

ヘルパンギーナ

(特徴)

発熱と喉の痛みが主な症状の夏かぜの一種です。合併症として、熱性けいれん、特に乳児では脱水症、まれですが小児では髄膜炎や心筋炎などに注意が必要です。発症後4週間後頃までは、便からウイルスが排泄されるため、おむつ交換の後はしっかり手洗いしてください。

(感染経路)

感染経路は、便からの感染を含む接触感染と飛沫感染です。

4

ヘルパンギーナ



5

手足口病

5

手足口病

(特徴)

口の中や、手足などに水疱性の発しんが出る感染症です。こどもを中心に感染し、多くが数日間のうちに改善しますが、まれに重症化することがあり注意が必要です。

(感染経路)

飛沫感染、接触感染、糞口感染(便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染)が知られています。



INDOOR

2

新型コロナウイルス感染症

(特徴)

令和5年5月に感染症法上の「5類感染症」に移行されましたが、リスクの高い感染症に変わりはありません。引き続き基本的な感染対策を心がけ、自分や周囲への感染を防ぎましょう。

(感染経路)

患者から排出されるウイルスを含む飛沫、さらに小さな水分を含んだ粒子(エアロゾル)の吸入、感染者の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染します。

3

咽頭結膜熱

3

咽頭結膜熱

(特徴)

アデノウイルスの感染により、発熱、のどの痛み、結膜炎といった症状が数日続く、こどもに多く見られる感染症です。感染者が使ったタオルなどにウイルスを含んだ目やに、唾液、鼻水が付着していることもあるので、タオルの共用は避けましょう。

(感染経路)

主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

1

RSウイルス感染症

(特徴)

RSウイルスによる呼吸器感染症です。生後6ヵ月以内の乳児、基礎疾患のある小児や高齢者がかかると重症化する可能性があるため、注意しましょう。

(感染経路)

主に接触感染、飛沫感染によって感染します。

2

新型コロナウイルス感染症



1

RSウイルス感染症



© matsu - stock.adobe.com

咳エチケットなどの基本的な対策が必要

この時期は、夏かぜといわれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」などの感染対策も気になる場所です。

「夏かぜは、こどもがかかる



時岡 史明

健康生活衛生局
感染症対策課
感染対策課
医療体制専門官

もの」と思われがちですが、夏かぜの原因となるウイルスの型には多くの種類があり、1シーズンに何回もかかる大人も少なくありません。

また、近年夏期に増加傾向がみられている「RSウイルス感染症」や「新型コロナウイルス感染症」もまだまだ注意が必要です。

いずれの感染症も手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染対策が重要です。発熱やせきに加えて、呼吸が苦しい、食事や水分が摂取できないといった症状が見られたら、すぐに医療機関に相談しましょう。